| 教科名 | 地歴 | 科目 | 日本史選択(進学) | 週授業時間 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|

1.　教科書および副教材・参考書

『詳説日本史 B』（山川出版社）『詳説　日本史図録』(山川出版社)『ゼミナール日本史』(浜島書店)

『一問一答日本史 B 用語問題集』(山川出版社)、『日本史用語集』(山川出版社)などの用語集があると、各自の学習に役立ちます。

2.　授業の目標および内容

日本史選択の授業は、1 学期は 2 年生時の学習に引き続き「桃山文化」から「天保の改革と化政文化」まで。2 学期は「開国」から「現代の日本」までを扱う予定です。授業形式として、扱う内容が多いためプリントを使用した書き込み学習を主とします。

受験生になる学年であり、日本大学の基礎学力到達度テストを主眼に置きながら、他の私立大学・国公立大学の進学を志す生徒の受験も意識した指導を行います。幅広い大学への進学を視野に入れるため、根拠をもとにした歴史認識を形成していく必要がありますが、演習の授業との連携を図り、大学入試に対応できる土台造りを行っていきます。

そのために、歴史的事象の「因果関係」を重視した授業を行うとともに、歴史的事象そのものの「理解」や「意味」を捉えさせることを重視していきます。大学受験を念頭においた学習では、どうしても一問一答的に用語を暗記する学習に走ってしまいがちになりますが、そのような学習では歴史を学んだことにはなりません。したがって、単元ごとに各時代の特徴や、歴史事象の本質を掴み、理解を深めること、ひいては今後「日本人」として国際社会を舞台に生きていく立場であるということを念頭に置いて、過去を踏まえたうえで自らの意見を形成し、それを表現する力の素地を養うことを目標とします。

3.　試験について

| | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 定期試験 | 一次　中止 | 二次　7 月 | 一次　10 月 | 二次　12 月 | なし |
| 学力試験 | 第 1 回　7 月 | | 第 2 回　9 月 | | なし |

内容・難易度について

①定期試験：100 点満点で出題します。範囲はその都度指示します。学んだ内容に関連する初見の史料問題や記述・論述問題なども出題し、学習内容の習熟度を確認します。

②学力試験：選択・演習の範囲それぞれ 50 点分出題します。マーク式の解答となります。

4.　課題・補習について

受験生という自覚を持ち学習がなされることを前提として、『ゼミナール日本史』を用いて、復習や課題など必要に応じて指示をします。

5.　評価の観点

一次テスト、二次テストの点数をもとに、授業態度や提出物等を勘案して評価します。

年間授業計画

| 学期 | 単元 | 学習内容 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 第６章　幕藩体制の確立<br>第７章　幕藩体制の展開<br>第８章　幕藩体制の動揺 | 桃山文化<br>幕藩体制の成立<br>幕藩社会の構造<br>幕政の安定<br>経済の発展<br>元禄文化<br>幕政の改革<br>幕府の衰退<br>化政文化 | 応仁の乱後のいわゆる戦国時代がどのように終息し江戸幕府が成立したのかをはじめとして、常に幕府の課題となり続けた飢饉に対しどう向き合ったのか、ペリー来航によって江戸社会がどのように変化していったのかを基軸として、時代や為政者ごとの政治の特徴や社会の変化を中心に学習する。<br>また、文化史を扱う際には政治との関連性も踏まえながら学習する。 |
| 2 | 近代国家の成立<br>二つの世界大戦とアジア<br>戦後を歩む日本<br>現代の日本 | 開国と幕末の動乱<br>明治維新と富国強兵<br>日清戦争と日露戦争<br>第一次世界大戦<br>恐慌と軍部の台頭<br>第二次世界大戦<br>占領と改革<br>経済の復興と高度成長<br>現代の社会、政治経済 | 明治政府の近代国家政策がどのように展開されていったのかを、諸外国とのつながりを踏まえながら学習する。<br>また、日清・日露戦争などを通じて植民地政策とそれに付随して展開されていく日本の軍国主義化の過程を学習し、２つの戦争の後、復興を遂げる日本の姿を追う。 |